

==宇電懇ニュース No.113==

2004年10月1日

宇電懇事務局（大阪府立大学）発行

宇電懇ニュース No.113 をお届けします。この号は ryunet による電子メール配信と宇電懇 web ページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/udenkou/>)掲載でお伝えします。

目次

	ページ
I. 宇電懇総会報告	1
II. 次期宇電懇運営委員会委員選挙結果	4

I. 宇電懇総会報告

日時：2004年9月22日 12:00～13:00

会場：日本天文学会秋季年会会場（岩手大学）にて

1. ALMA 計画進捗報告（石黒）

○日本参加による強化 ALMA の建設に関する協定締結が9月14日をもって完了した。

・協定のタイトルは、

AGREEMENT CONCERNING THE CONSTRUCTION OF THE ENHANCED ATACAMA LARGE MILLIMETER/SUBMILLIMETER ARRAY (ALMA) である。

・署名者

日本：志村令郎（自然科学研究機構長）

北米：Arden L. Bement (NSF Interim Director)

欧州：Catherine Cesarsky (ESO Director General)

・2005年12月31日までに、初期運用および本格運用に関する協定を締結する予定である。

○チリとの交渉

・チリ共和国の国内法にもとづき、国立天文台のチリ国内での法的地位確立のための交渉が行われ、その第一歩としてのチリ大学との協定書への署名が7月に完了した。

署名者：

海部宣男（国立天文台台長）

Luis Riveros（チリ大学学長）

○概算要求

・8年計画の2年目要求が、ほぼ予定どおり進んでいる。

・概算要求に関連し、科学技術・学術審議会学術分科会学術研究推進部会（7月29日）および総合科学技術会議分野別ヒアリング（9月24日）でALMAの評価が行われた。

○2004年度の計画進捗状況

ACAシステム主要装置として、ACAシステム用12mアンテナおよび相関器の製造に着手した（それぞれ3年計画）。受信機関係では、バンド4およびバンド8受信機カートリッジのプレ量産モデルの試作・開発が急ピッチで進められている。

○東アジア諸国との強力

東アジア地域における ALMA での協力関係の確立に向けた努力が進められている。これは、科学技術・学術審議会及び総合科学技術会議の評価においても強く勧告され、かつ努力を評価されているところである。現在、台湾 ASIAA（中央研究院天文及天体物理研究所）および中国・紫金山天文台と具体的な協力内容が検討されており、東アジア天文学会議(10月18日～22日、ソウル)の機会をとらえて、更に広い範囲で議論を行なう予定である。

○チリ大学との協力を深める可能性に関して議論があった。

2. 合同シンポジウム「次世代天文学 - 大型観測装置とサイエンス -」(阪本)

○背景

計画の大規模化。天文分野内での合意形成が重要。サイエンス面での10-20年後を展望。

○準備状況

日時：2004年12月25-27日

場所：東京大学化学本館5階講堂(238名収容)

共催：理論懇、宇電懇、高宇連、光天連、V懇、CRC(予定)

SOC：須佐、千葉、西、和田(以上理論懇)、鶴(高宇連)、土居(光天連)、阪本(宇電懇)

URL：<http://astro1.sc.niigata-u.ac.jp/sympo04/>

財源：国立天文台より57万円補助(当日の旅費補助で精一杯。事前の勉強会などの予算が無い)。

共催団体・プロジェクトからの補助に期待。

ALMA 推進室から補助を行なう。

宇電懇から補助を行なうか否かについては、新運営委員会にて議論する。

○サイエンス検討班の構成

テーマ	座長
宇宙論・構造形成	吉田直紀
銀河団・銀河間物質	藤田裕
銀河・銀河形成	児玉忠恭
AGN	和田桂一
星間物質(銀河内物質)・星形成	犬塚修一郎
星・コンパクト天体	長滝重博
惑星形成	小久保英一郎

○今後のタイムライン

速やかに	大型プロジェクトの基礎資料のとりまとめ
速やかに	サイエンス班各分科会の開催
10月中旬	仮プログラム配信
10月末	参加登録(旅費補助)締め切り
12月25-27日	シンポジウム当日(招待講演+ポスター)
来年1月頃	集録・報告書作成

○進行状況について、ryunet を通じて随時アナウンスする。

3. 活動報告（事務局）

1. 事務局引き継ぎ（4月）
2. 宇電懇ニュース112号の発行（6月）
3. 次期宇電懇運営委員選挙実施（7月）
4. 電波専門委員（台外委員）の推薦（7月）

今年度より電波専門委員会が国立天文台運営会議の下部組織になり、改選が必要となった。宇電懇運営委員会で検討の上、第8期電波専門委員会委員の台外委員メンバーより、（異動に伴い）坪井昌人氏を除き、中井直正氏を加えた以下の8名を推薦した（敬称略）。

岩田 隆浩、太田 耕司、土居 守、中井 直正、福田 洋一、藤沢 健太、水野 亮、山本 智
国立天文台運営会議にて全員承認された。第9期メンバーの任期は、2004年8月1日から2年間。

5. 名簿整備（随時）

- ・所属等の変更があったら、事務局まで速やかに連絡を。
- ・実際にメールを読んでいるアドレスを ryunet に登録するように。

6. 若手の入会促進（随時）

野辺山ユーザーズミーティングにて積極的にアナウンスした結果、26名（主として若手）が新入会。会員数：349名（2004.9.22 現在）

4. 次期宇電懇運営委員選挙結果（事務局）

「II 次期宇電懇運営委員会委員選挙結果」を参照の事。なお、選出方法に関する質問および投票締め切り直前に投票を促す呼びかけが無かった事に関する指摘などがあった。次回の選挙時には、投票用紙に選出方法を明記する事、投票率向上に向けて努力する事を、次期事務局への申し送り事項とする事にした。

5. その他

○SKA（井上）

上記項目第2項の合同シンポジウム「次世代天文学- 大型観測装置とサイエンス-」の前に小討論会を行ない、SKA に対する日本の立場や方針、および関連して ALMA 後の電波天文学将来計画についてなども議論する予定。小討論会に関しては、追って ryunet を通じてアナウンスする。

○SEST 望遠鏡について（三好）

SEST 15 m 電波望遠鏡（チリ）は、（資金不足のため）現在閉鎖中であるが、ALMA サイトから 800 km と手頃な基線長である事から、将来サブミリ波 VLBI (230-345 GHz) を行なう際には、必須の望遠鏡であると思われる。日本の電波コミュニティとして、最低限の維持、あるいは単一鏡としての立ち上げ（現時点では、受信機・バックエンド等は装備されていない）に関する要望があるか、意見を募集中。三好 真（国立天文台）まで。なお、ASTE との兼ね合いに関して議論があった。

○ペルー 32 m 電波望遠鏡について（イシツカ）

運用資金が不足している。寄付を募集中。詳細は、イシツカ ホセ（国立天文台）まで。
http://www.geocities.jp/peru_32m_antenna/index.html

○ ryunet 投稿制限について

SPAM 対策のため、登録アドレスからのみ投稿可能にしてはどうかという提案があったが、現状で特に不都合は見られないため、問題が生じた際に改めて議論する事にした。

II. 次期宇電懇運営委員会委員選挙結果

第 XIII 期運営委員 (2004 年 10 月 1 日～2006 年 9 月 30 日) を選出するための投票は 7 月 16 日で締め切られ、運営委員である福井康雄氏立ち会いのもと、宇電懇事務局で開票しました。投票総数 31 (委員長 1 名、委員 9 名連記) でした。上位得票者は以下の通りです (以下敬称略)。

運営委員長選挙 (投票総数 31 票)

順位	氏名	得票数
1	石黒 正人	6
2	井上 允	4
3	長谷川 哲夫	3
4	坪井 昌人	3
5	小川 英夫	2
	以下省略	

運営委員選挙 (投票総数 31 票×9 名連記=279 票)

順位	氏名	得票数
1	河野 孝太郎	12
2	亀野 誠二	10
3	坪井 昌人	9
	百瀬 宗武	9
5	今井 裕	8
	春日 隆	8
	小林 秀行	8
	福井 康雄	8
	面高 俊宏	8
10	中井 直正	7
	以下省略	

選挙結果に基づき、第 XIII 期宇電懇運営委員 (任期：2004 年 10 月 1 日～2006 年 9 月 30 日) として
委員長 石黒 正人
委員 今井 裕、面高 俊宏、春日 隆、亀野 誠二、河野 孝太郎
小林 秀行、坪井 昌人、百瀬 宗武、福井 康雄
が選出され、宇電懇総会にて承認されました。

宇宙電波懇談会 事務局

〒599-8531 大阪府堺市学園町 1-1

大阪府立大学 総合科学部 自然環境科学科 宇宙物理学研究室

小川英夫(電子版では非公開)

米倉覚則(電子版では非公開)

宇電懇インターネットホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/udenkou/>